

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	市有林造林保育費				
担当課係名	農林課	林務係	作成者	田口幸栄	
総合計画での位置づけ	施策の大綱	特色ある資源を活かした産業創造のまち			総合計画のページ 66
	基本計画	森林の整備と林業の振興			
	主要施策	林業生産活動の活性化			
予算費目	一般会計	6款 農林水産業費	2項 林業費	2目 林業振興費	
事業期間	平成 年度 ~ 平成 年度	新規 / 継続の区分		継続	
性質区分	☐ 市民サービス ☒ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☒ 内部管理				
根拠法令等	なし				
事務区分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務				
運営方法	☐ 直営 ☐ 直営(一部民間委託) ☒ 民間委託(全部) ☐ 補助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	市有林
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	資産価値を上昇させるため適期の施業を行い、加えて林業従事者等に施業の委託を行うことにより、技能者の育成・新たな雇用者の創出・若年労働者の確保を図る。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	造林地の育成状態により、適期に除伐・枝打・間伐・主伐を行う。

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	市有林造林事業実施面積	目標	ha	75.99	159.65	80.58	
			実績	ha	83.87	150.99	81.56	
			達成度	%	110.4%	94.6%	101.2%	
	成果指標	造林事業実施面積 / 全市有林面積 [1,096ha]	目標	%	6.93	14.56	7.35	
			実績	%	7.65	13.77	7.44	
			達成度	%	110.4%	94.6%	101.2%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)		71,305		15,960	30,146	15,141	
	人 件 費 (B)		—		785	807	793	
	職 員 数		—		0.10	0.10	0.10	
	職 員 平 均 人 件 費		—		7,853	8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト				16,745	30,953	15,934	
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金				9,230	18,487	10,016
		地 方 債				6,700	11,600	5,100
		そ の 他						
		一 般 財 源		0		815	866	818
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		199,654	205,000	195,365
		市民1人当たりのコスト(円)		—		525	985	513

【事務事業の今までの成果】

全市有林面積の内、スギ面積は843.33haで平均林齢は33.1年となっている。
まもなく収入間伐の時期に入っていく。
スギ以外の山林については、309.96haで平均林齢は43.9年となっている。
今後、この雑木林を活用していきたい。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	国は森林機能の向上を、二酸化炭素排出削減の効果を上げるための取組みのひとつにとらえ、より今後間伐事業並びに生産材の搬出を助成していくものと思われる。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	林業従事者にとっては、公有林は大事な就労の場と位置づけられている。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
A	A 現状のまま継続（実施）	今後の市の財産にもなり、又林業従事者の雇用場の確保の上からも、継続することが大事と考えられる
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

--

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
A	森林機能の維持向上・市有林の継続的な有効活用を図る観点から、引き続き必要な事業と考えます。

一次評価診断図

